

日体魂

日本体育大学
東京都同窓会会長

第15号

平成27年1月1日発行
発行者 東京都同窓会長

岡田 信之

二〇一八年問題を考える

二〇一六年と二〇二〇年の

狭間にあって

日本体育大学

学長 谷釜了正



二〇一三年九月、アルゼンチンのブエノスアイレスから朗報が飛び込んできました。二〇二〇年に東京でオリンピックとパラリンピックを開催するとIOC総会で決定をみたことによります。スポーツ関係者はもとより、国民の多くが喜び、沸きに沸いたのは記憶に新しいところです。言うまでもなくこの朗報は日本の将来にとって追い風になります。一九六四年のオリ

ンピックのようには本学に強く吹く追い風になるとみなすことはできません。体

育・スポーツ系の大学や学部が次々に開設されただけでなく、大手有名大学までもがこの分野に参入しています。半世紀前に吹いた風は強く日体大を後押ししてくれましたが、次の二〇二〇年の風は期待薄と言わねばなりません。万遍なく様々な大学に吹くに違いないありません。その風を我が大学に強く吹くように誘い込む手立てを用意しなければなりません。

開催国日本の選手団は大きく膨らむことが予想されます。そこでロンドン・オリンピックに名の本学関係の現役・OBの選手が出場していること

を根拠に、東京では七〇名以上の選手の輩出を目指して強化に当たることになりました。選手のリクルーティング、強化費の捻出、科学的マルチサポート・チームの編成、女子アスリートの医科学的支援など、可能な限りの選手のため競技環境を整備していかねばなりません。大学の内外の支援を得て、目標の実現に尽力します。

二〇一六年は日本体育大学の法人・大学の創立百二十五周年に当たりますが、これを記念して祝賀会を実施します。百二十五周年記念事業としてすでに東京世田谷キャンパスの再開発がなされ二〇一二年に祝賀会を実施しております。二〇一三年四月に児童スポーツ教育学部を、二〇一四年四月には保健医療学部を開設していますが、これらはすべて創立百二十五周年を飾る事業であると申し上げることができそうです。いうまでもなく、二〇一六年には創立記念式典を東京世田谷キャンパスにて

開催すべく準備しているところですが、さらに伝統ある体育学部の改組を記念事業の一環として位置づけて検討に入っているところです。

どうしてそんなに急いで改組に向かわねばならないのか、との疑義が生じるところです。が、それは二〇二〇年の世界の祝祭典を迎える以前に、どの大学でも二〇一八年問題を抱えているからです。したがって、本学もオリンピックとパラリンピックを迎える前にこの問題に対する適切な措置を講じておく必要があると考えています。現在の十八歳人口は下り階段の踊り場にある状態ですが、二〇一八年から再び減少します。選ばなければ誰でも大学に進学できるのがいまの状況ですが、さらにこの傾向が強くなります。それまでに日体大はより一層選ばれる大学へと改善して置くことが大切になります。そのためには肥大化した体育学部を適正規模に分割し、教育の質を上げることが課題になり

ます。日体大の伝統を保持しつつ、新しい時代のニーズに応えうる大学にリニューアルしておかねばなりません。オリンピックとパラリンピックが終幕した翌年あたりから、一九六四年の東京オリンピック後がそうであったように、“オリンピック不況”に見舞われ、結果として大学への進学率が延びてこないことが予想されます。私たちはオリンピックで浮かれ、本学の伝統に胡座をかいているわけにはいかない状況に、いま、おかれていると思います。

日体大には慶事(二〇一六年)と慶事(二〇二〇年)の狭間に生き残りが問われる難題が横たわっていることを認識しつつ、積極的に二〇二〇年を迎え、ポスト二〇二〇年を展望するという課題があります。同窓の皆さんの助けをお借りして、法人と大学の教職員が一体になってそうした難題解決に挑むことが大切であると考えています。

東京都の教員採用

試験を終えて

波多野 静

私は、平成二三年に日本体育大学を卒業しました。

大学卒業後、企業に就職しましたが一年で退職し、カナダへ留学しました。カナダ留学を通じて、さまざまな国籍や年齢、性格の人と出会い、いろいろな考え方にふれることで自分自身の視野を広げることができ、自分の考え方や自分の生まれた国を見直すという点において、貴重な経験をすることができました。帰国後は「教師になる」という夢を叶えるべく、非常勤講師をしながら毎日、必死で勉強しました。今回、東京都の教員採用試験に向けて、どのように準備し、挑んだのかを未熟ながら寄稿させていただきます。

を何回も繰り返す勉強方法で知識を定着させていきました。教育心理にしても、答申などにしても、覚えて知識をつけて「教師として、教育現場で生徒のためにどう活かせるか」を考えながら勉強することで、より深い知識を得ることができました。専門教養では、受験しない県も含めて、とにかく過去の問題集をたくさん解きました。また、学習指導要領をよく読んで、覚えることは勿論ですが理解することが必要だと痛感しました。論文に関して、私は一次試験の三週間前まで、納得のいく論文が書けず悩んでいました。そんな時、日本体育大学で「東京都同窓会主催の論文講座」があると知り、参加しました。講座では、本試験のように課題が提示され、七十分で論文を書き、書いた論文を先生方が添削してくれました。三週間後に本試験があるにも関わらず、私は論文を時間内に書き終えることができず、焦りました。しかし、焦っている

私に対し、先生方は読み手の読みやすい書き方など、熱心に教えてくださいました。講師の先生方に直接相談したことがきっかけで、自分なりの論文が書けるようになりました。また、講師の先生方には単に「教員採用試験対策」だけではなく、先生方の経験談を交えて「いい教師になるには」というような内容の話をしていただき、将来の自分自身の教師像というものをより強く意識することができました。

二次試験対策では、日本体育大学主催の二次試験対策講座に参加しました。東京都同窓会の先生方をはじめ、他県の同窓会の先生方が講師として来てくださり、多くの助言を頂きました。管理職を経験された先生方からの視点で正直にくれる助言は、私自身の良い点や悪い点を見つめさせてくれ、どこをどう直せばいいのか、明確にわかるようになりました。また、仲間の個人面接や集団討論を見ること

ができ、とても参考になりました。先生方の熱心なご指導のおかげで、モチベーションを維持することができ、頑張っている受講生にも励まされ、二次試験の本番までしっかりと準備をすることができました。実技試験の練習は、大学の二次対策講座で知り合った仲間と共に練習をしました。ハードル、跳び箱、水泳、ハンドボール、剣道、ダンスと多種多様な実技試験の内容でしたが、互いに教え合ったり、励まし合ったりしながら、練習に励むことができました。

今回の教員採用試験を通じて、同窓会の先生方をはじめ、キャリア支援センターの方々を中心に大学側の手厚い支援に日本体育大学の「絆」を実感しました。多くの方々からの支えがあったからこそ「合格」することができたのだと思います。熱心に指導してくださった先生方、共に頑張った仲間達、応援し続けてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。私は、これからも

学び続けることを忘れない教師を目指したいと思います。

「教育実習特別講師」

教育支援委員会

委員長 野口和矩

東京都同窓会では、教育実習特別講師反省会を十一月八日(土)に実施した。今年度の実習生は、二三名、特別講師は五三名、反省会には五名の出席者、大学からは学長室長荻浩三氏、准教授後藤藤彰氏、キャリア支援事務長大山茂氏、実習生担当責任者林美佳子氏にご出席をいただき開催された。本年度初めて講師を引き受けた講師からご感想をいただき、実習生の実態や大学への要望等、意見交換がなされた。

翌週の十一月十五日(土)には、全国反省会が日本体育大学会議室で行われた。各都道府県の代表者が参加し、全国同窓会会長滝沢康二氏の挨拶に始まり、副学長袴田大蔵氏、学部長具志堅幸司氏のご

挨拶、各ブロックに分かれて情報交換、反省会を行った。その内容は、次のとおり

一 事前指導について

二 実習の状況について

三 巡回指導の課題、解決策について

四 全般的な課題と解決策について

五 教員志望の学生の資質向上について

六 その他

等について、ブロックごとに報告された。

実習生の実態や大学への要望等は、教員志望の学生の減少や指導案等の作成能力の低下、実技種目の示範不足等々、課題は多い。

今後、この取り組みを続けていくことで、より一層大学との連携がとれ、大学のキャリア教育の一端を担う役割を果たすようになれば、教職を目指す学生の増加、採用選考の合格者も増えていくものと思う。二七年度も二百数十名の実習生の巡回指導等を予定している。

オリンピックへの想い

— リオから東京へ —

浜田 千穂

二〇一三年九月七日、日本中が歓喜に湧いた。

たくさんの方々の協力によって、東京でのオリンピック開催が決定した。

私の夢であるオリンピック。

その舞台が地元東京で開催されると決まり、喜びと憧れがより一層強くなった。日本での開催は、一九六四年以来五六年ぶりに開催されるオリンピックである。生きている中で一度あるかないかという地元開催のオリンピックに、私がまだ選手として競技に関われるこの時期に東京で開催が決まったことは、とても幸運で幸せな巡り合わせだと感じた。

私がレスリングを始めたきっかけは、母の友人が始めたレスリング教室に誘われて見学に行つたのが始まりである。そんなレスリング人生も今年で十五年目になる。母の友人であり私の恩

師の先生は、選手としては二度世界チャンピオンに輝いた。しかし、先生が現役の時代には女子レスリングはオリンピック種目ではなかった。すごく悔しかったし、オリンピック競技になることを信じて限界まで続けたが、オリンピック競技にはならなかったという話を何度も聞いた。その話を聞き、絶対に私が先生をオリンピックに連れていくと誓った。先生からも私の代わりにオリンピックで金メダルをとってほしいと言われた。私がオリンピックを目指して頑張っているモチベーションの一つが、先生への誓いと約束である。

私は現在日本体育大学レスリング部に所属している。高校から進学するときに日本体育大学を選んだ理由は、部全体の意識の高さ、練習内容を実際に肌で感じ、この大学で努力をすれば、オリンピックにいけるかもしれないと感じたからだ。先生たちはみな、日本で勝つためじゃない、世界で、オリンピックで勝つためにやっているんだ」と、口をそろえている。私もそ

う思うし、そうなりたいと思っている。今まで私は一から十まで全て恩師の先生の言う事を聞いて、その通りにしてきた。しかし、大学では全てを見てくれる先生はいない。ましてや、男子選手が六〇人以上もいる中で、先生は三人。自分で全て考えてやっていかなければならなかった。今までそれをしてこなかった私はたくさんの壁にぶつかった。でも、そのたびに必死に考え、そして周りも相談をすれば教えてくれた。

日本体育大学の四年間で、私が強くなれたのは、自分で考え、いろんな人から吸収し、解決策を見つけ出すことが出来るようになったからだと思う。そして壁にぶつかった時には、必ず助けてくれる人がいたということである。

松本先生は特に、多くの選手がいる中で、私のことを見捨てず、支えてくれている。そんな松本先生を私は信頼しているし、私のオリンピック出場を一番に信じてくれていると思う。

だから私は、オリンピックに出場したい。そして金メダルをとって、今まで支えてきてくれた人たちへ恩返しをしたい。

まずは、二年後のリオネジヤネイロオリンピック。

そして、六年後の東京オリンピック。

乗り越えなければならない大きな壁はたくさんあるが、自分の可能性を信じ、感謝の心を忘れず、これからも日々努力をしていこうと思う。

プロフィール

浜田 千穂

平成四年生まれ 22歳

神奈川県出身

平成二三年三月

日本工業大学駒場高校卒業

平成二三年四月

日本体育大学入学

現在、体育学部4年在学

◎ F I L A 世界ランキング1位

◎二〇一四年

レスリング世界選手権

女子55Kg級優勝

平成26年度 東京都同窓会アンケート集計結果 (7月19日実施)

アンケート提出者 30名(不明3人) / 70名の参加者

男 30歳代(1人) 50歳代(2人) 60歳代(5人) 70歳代(8人) 80歳代(3人)

女 40歳代(1人) 60歳代(1人) 70歳代(5人) 80歳代(1人) 1

1. 本日の参加について

① ちょうどよかった25人 ② 良かった2人 ③ その他(メンバーだから、教育実習の引率)

2. 開催日時

① ちょうど良い19人 ② 良かった3人 ③ 他の月がよい(6月)

3. 開催場所

① 大変良かった 14人 ② 良かった14人

4. 研修会(講演)について

① 大変良かった11人 ・大学時代の担任の先生の講演が聞けて大変有意義でした。

② 良かった11人

③ 良くなかった(スローガンについて(?) 教職養成大学—その援助はないのか

5. 研修会で取り上げてほしい内容がありましたらご記入ください

- ・保健医療学部を設置から「生命の尊厳」について取り上げていただきたい。
- ・我が国のスポーツ行政について
- ・スポーツに関する事項
- ・日体生、日体卒業生の世界トップアスリートとして活躍している選手の話を知りたい。
- ・本日の研修会大変良かった。OBとして大いに協力したいと思った
- ・金銭問題を引きずらないでほしい

6. 所属する支部で定期的に行っていることがありましたらご記入ください

- ・忘年会
- ・年に1回総会・懇親会

7. 同窓会の在り方(活動・運営方法等)についてのご意見をお聞かせください

- ・総会に出席させていただき、改めて同窓会を考える場となりました。有難うございます
- ・大学の宿かりではなく、独立活動ができる経済的独立を目指す

8. その他

- ・若い世代に声をかけていきます
- ・名札の字を大きくしてください
- ・ご苦労様です
- ・ボールペンなど日体グッズを戴けて嬉しいです

アンケート結果を受けての分析**1. 本日の参加について**

- ・案内状が送られてきて出席した方が殆どであった(30人中25人)

2. 開催日時

- ・概ね良かった

3. 開催場所

- ・大変良かった、良かったは同数でありおおむね良好と受け止めた

4. 研修会(講演)について

- ・大変良かった、良かったが同数であり、おおむね良好と受け止めた

5. 研修会で取り上げてほしい内容について

- ・さまざまなご意見が出ました。次回講演会の決定に向け早い時期から検討していく

6. 所属する支部で定期的に行っていることがありましたらご記入ください

- ・今年度中に、各支部に確認し、年度の初めまでには、副会長以上の出席が図られるよう準備する。

7. 同窓会の在り方(活動・運営方法等)についてのご意見

- ・(同窓会総会への出席者の増加・会員登録・同窓会費徴収の件等)様々のご意見がありましたので、今後執行部会に図り次年度の活動につなげる

8. その他(お気づきの点がありましたらご記入ください)

- ・名札の文字を大きくとの意向を次年度につなげていきます

編集後記

今号の同窓会会報第15号では会報の体裁を一新致しました。

題字は本学卒業柔道部溝上征康氏に書いて頂きました。

一九六四年や二〇二〇年の東京オリンピックに纏わるお話をぜひご寄稿ください。また、都同窓会の今後の活動やあり方、会報第15号についてのご意見やご感想、次号以降についてのご要望など、是非お聞かせください。